



労働政策研究報告書 No. 92

2007

JILPT : The Japan Institute for Labour Policy and Training

---

---

子どもの将来とキャリア教育・  
キャリアガイダンスに対する保護者の意識

労働政策研究・研修機構

子どもの将来とキャリア教育・  
キャリアガイダンスに対する保護者の意識

独立行政法人 労働政策研究・研修機構

The Japan Institute for Labour Policy and Training

## まえがき

フリーター・ニートに象徴される若年不安定就労の問題に対する社会的な関心の高まりから、現在、各方面で若者の就労支援・キャリア形成支援が行われている。なかでも、学校教育段階の若者に対するキャリア教育・キャリアガイダンスの取り組みは大きな広がりを見せている。

特に、日本のキャリア教育・キャリアガイダンス施策の大きな特色は、学校内外の様々な関連諸機関の連携によって行われている点にある。中学校における職場体験学習に示されるように、日本のキャリア教育・キャリアガイダンスは、学校の中で行われるのみならず、地域の企業や経営者団体、ハローワークなどの公的機関・NPOなどとの連携によって行われている。

こうしたなか、改めて、その重要性が認識されているのが、キャリア教育・キャリアガイダンスにおける保護者の役割である。現在、保護者は、様々な立場で学校のキャリア教育・キャリアガイダンスに関わっている。家庭にあっては親であり、子どもに対する家庭教育の主体である。しかし、同時に、社会人としては職場体験先として子どもを迎える受け入れ先でもある。また、地域では他人の子どもを含めた若者を取り巻く地域住民でもある。

そのため、保護者が現状のキャリア教育・キャリアガイダンスをどのように考えているのかは、今後の日本のキャリア教育・キャリアガイダンス施策の行く末を占う上で極めて重要な要素となる。現状において、保護者が子どもの将来に寄せている期待とは何か。そして、子どもが育った先にある社会をどのように考えているのか。子どもにどんな能力を身につけさせたいと考え、学校にどのような教育を期待しているのか。そのために、社会人として、地域住民としてどんな面で貢献できると考えているのか。

本報告書では、以上のような問題意識を背景に、子どもの将来とキャリアガイダンスに対する保護者の意識について幅広く検討を行った。本報告書が若年者のキャリアガイダンスの今後を考える上で基礎的な資料を提供することができれば幸いである。

2007年9月

独立行政法人 労働政策研究・研修機構  
理事長 小 野 旭

### 執筆担当者（執筆順）

氏名	所属	執筆担当章
下村 英雄	労働政策研究・研修機構 副主任研究員	第1章、第4章、 第5章5、第6章、 第7章1
本間 啓二	日本体育大学 教授	第2章
三村 隆男	上越教育大学 准教授	第3章、第7章2
榎本 和生	多摩美術大学 教授	第5章1-4
長須 正明	東京聖栄大学 専任講師	補章

### 「キャリア発達支援研究会」委員一覧（五十音順）

榎本 和生	多摩美術大学 教授
長須 正明	東京聖栄大学 専任講師
本間 啓二	日本体育大学 教授
座長 三村 隆男	上越教育大学 准教授
吉田 修	労働大学校 特任教授

#### 〈事務局〉

下村 英雄                      キャリアガイダンス部門 副主任研究員

※なお、本研究会のメンバーは日本キャリア教育学会研究推進委員会のメンバーであり、本研究は、日本キャリア教育学会との共同研究として行われた。

## 目 次

<b>第1章 本研究の問題意識と目的</b> .....	1
1. 本研究の背景 .....	1
2. キャリア教育・キャリアガイダンスに関して「保護者」が 労働行政に寄せる期待 .....	4
3. 本研究の問題意識と具体的な課題 .....	8
4. 本研究における調査手法 .....	9
5. 本報告書の構成 .....	11
<b>第2章 子どもの将来に対する保護者の期待</b> .....	13
1. 問題意識 .....	13
2. 子どもの将来について望むこと .....	13
3. 家庭における子どもとの接し方 .....	19
4. 子どもの将来の職業生活のために家庭で行っていること .....	25
5. まとめ .....	27
<b>第3章 学校のキャリア教育に対する期待</b> .....	29
1. 学校で行われている進路指導に対する期待 .....	29
2. キャリア教育として重要と思われる授業内容 .....	32
3. 文部科学省「キャリア・スタート・ウィーク事業」に対する考え .....	35
4. 学校で身につけてほしい力 .....	39
5. 将来や職業についての外部の相談機関へのニーズ .....	42
<b>第4章 子どもの将来とキャリア教育に対する保護者の意識</b>	
— 多変量解析による検討および労働行政に対する示唆 .....	44
1. はじめに .....	44
2. 子どもの将来に対する期待の諸相 .....	44
3. 子どもの将来に対する期待とキャリア教育に対する関心との関連 .....	49
4. 子どもの将来に対する期待に関するその他の分析 .....	52
5. まとめ—キャリア教育・キャリアガイダンス施策および労働行政に対する 示唆 .....	56

<b>第5章</b>	<b>社会人・地域住民の立場からみたキャリア教育</b>	61
1.	社会に出てくる若者にどんな能力・資質を求めているか	61
2.	それらの能力・資質をどこで育成すべきか	63
3.	「キャリア教育」にどの程度関わることができるか	63
4.	社会人の立場からみたキャリア教育のまとめ	65
5.	地域住民の立場からみたキャリア教育	65
<b>第6章</b>	<b>今後の社会情勢の認識とキャリア教育</b>	73
1.	今後の社会情勢に対する保護者の認識を検討する意義	73
2.	保護者がもつ今後の社会情勢に対する認識	74
3.	今後の社会に関する認識の保護者による違い	75
4.	今後の社会情勢に対する認識の相互の関連	78
5.	今後の社会情勢の認識がキャリア教育に対する意識に与える影響	81
6.	今後の社会情勢の認識と社会人として期待する能力の関連性	85
7.	本章のまとめと示唆	87
<b>第7章</b>	<b>今後のキャリア教育・キャリアガイダンス施策への示唆</b>	89
1.	労働行政におけるキャリアガイダンス政策への示唆	89
2.	学校におけるキャリア教育への示唆	92
<b>補 章</b>	<b>自由記述結果にみるキャリア教育</b>	99
1.	問題と目的	99
2.	自由記述の結果	100
3.	「キャリア教育」について	100
4.	「子どもの将来」について	109
5.	「教育」について	118
6.	自由記述結果の考察と提言	120
<b>資料</b>		
	子どもの将来とキャリア形成に関するアンケート調査	
	調査票および単純集計表	127